

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テ ー マ	静岡県内の分娩施設退院後に母親が抱く産後ケアニーズに関する研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	高橋 明味
	研究協力者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	福島 恭子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	中川 有加
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	長屋 和美
		所属・職名	前 看護学部・教授	氏名	太田 尚子
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	高橋 明味

講演題目
静岡県内の医療過疎地域における子育て支援の現状
研究の目的、成果及び今後の展望
【研究の背景・目的】育児期の母親の孤立や孤独感と、母親の心身の不調や産後うつ、自殺、虐待との関連が示唆されている。へき地・中山間地を含む地域と市街地を含む地域との産後ケア利用率に差があるとされ、本県においても、同様の傾向にあると推察される。出生数の少ない地域において子育て中の母親の孤立を防ぎ、子育てしやすい環境を整えることは、次子の妊娠を考えるきっかけにもなり得る。地域での継続した子育て支援の充実を図るためには、地域特性に応じた利用者ニーズの把握が必要である。本研究では、静岡県の医療過疎地域における子育てに関わるサービスや利用状況などの現状を明らかにすることを目的とする。 【成果及び今後の展望】 伊豆半島南部は、令和5年の下田市総出生者数66人、下田市高齢化率43.6%、賀茂地域高齢化率48.7%と少子高齢化が進む地域である。下田市・南伊豆地区の子育て支援事業の視察を行ったところ、下田市主催のプレママパパセミナーには、9組17名の妊婦とパートナーが参加しており、母親のみならず父親も含めた交流を図っていた。担当の保健師や地域の勤務助産師が、分娩場所や里帰りの有無、労働環境等を把握し、事業後には孤立や産後うつなどのリスクとなり得る妊婦の情報を共有していた。また、陣痛発来時や緊急時の対応についても、「妊婦サポート119」の登録状況の確認や分娩予定日と地域イベントによる道路混雑見込みといった地域に特化した内容を具体的に説明しており、医療資源へのアクセスが容易でない地域において、地域や家庭に応じた個別の対応を丁寧に行っていた。 下田市社会福祉協議会が主催する「ひよこサロン」では、無料で子育て中の保護者の交流や自由に遊ぶことができるスペースを提供していた。0歳時を育てる母親を中心に17組19名の親子が参加していた。主催者によると多くは複数回参加の“リピーター”であった。母親は、ボールエクササイズイベントや移動図書館などを通して母親同士の交流を図り、リフレッシュしている様子が見られた。主催者へのヒアリングでは、託児所や児童館、子育て支援センターが未設置だった下田市の、親が孤立しやすいという環境課題を解決するために、20年以上ボランティア団体とともに活動している経緯が明らかとなった。また地域の限られた資源の中で、「ひよこサロン」を拠点として地域の人材循環を行っていた。 母親やその家族と、行政、社会福祉協議会やボランティアなどの団体が、ネットワークを活用しながら、医療資源が少ないながらも重複しない子育て支援事業を企画し、地域にある人材を有効活用し、お互いが支え合うシステムを運用している現状が把握できた。 今後の展望として、地域に適した母親のニーズに合った子育て支援を検討するために、下田市・南伊豆地域における子育て中の母親を対象に、子育て中の母親が抱く産後ケアニーズを明らかにする。